

圏外のアンテナ

[トランプ台風]の巻

年下の友人数人が自宅に遊びに来た。トランプでもする？と誘ったところ、ハタチ前後の彼らは、ほとんどルールを知らないという。マジか?! と、思わず若者言葉でつぶやくわたし。

そうよね。今時、カードゲームなんて流行らないよね。トランプと云ったら、アメリカの大統領よね。などと思っていたところへ、真夏の台風がやってきた。

トランプ? 真夏の大型台風? あ! と、記憶の糸がバシッと音を立てた。

かつて、わたしが通っていた福島市の女子高には、希望者を募って山登りをする夏休みの行事があった。わたしたちが高1だった夏にも、大型台風が迫って来ていた。

そんなことにはお構いなく、元気に出発した一団だったが、台風はぐんぐんスピードをあげて大接近。

巻き付く風にあおられながらも、何とか浄土平にテントを張ったところで、残念ながら、登山は中止に。

今、移動するのは危険だとの判断で、テントの中で雨風をしのぐことになったものの、雷鳴とともに、ビキビキッと木の割れる音が聞こえて来るし、近くにそびえるヒマラヤスギはバサバサ枝を奮って暴れるし。

同じクラスのわたしたち7人は、ビビりながら、ミシミシと豪風にたわむテントの中に固まった。

そして何かに取り付かれたかのように、3日3晩、トランプのナポレオンをやり続けたのだった。ただの1度も寝袋を開くことなく……。

16歳の夏。外界と隔絶されたテントの中には、恐怖や忍耐を超えた、疑惑や裏切りや友情や陶酔のカオスがあったのである。

もし、あの勝負を、もう1度やれたなら、あと1回り大きな人間になれるんじゃないだろうか?

実際、下山したわたしたちの洞察力は、あのナポレオンさえ驚くほど、キレッキレだったのだから。

=2018年8月10日掲載=



ナポレオンは、相手の心理の裏をかく面白さが癖になるトランプゲーム